

能は歌舞(謡と舞)を中心に構成された演劇です。シテ(主人公)は神、武将の霊、草木の精、鬼など様々で、節(メロディ)を付けた「謡」を謡い。哀しい、嬉しいといった感情を表現する場面では舞を舞います。

狂言は中世の口語による会話劇です。おっちょこちょいな人や偉ぶった人が現れ、現代の私たちが見ても笑ってしまうような風刺劇がたくさんあります。

## 狂言「<sup>ぶ</sup>す 附子」

主人は二人の召使いに一つの桶を指し示し、これは猛毒の「附子」なので、気を付けて留守番をするようにと言い付けて、出掛けます。二人は附子に興味を持ち、毒に当たらないように奮闘しながら、附子の正体を見極めようとします。狂言と云えばこの曲名が上がる程の狂言の代表作です。

## 能「<sup>あだちがはら</sup> 安達原」



能「安達原」 ©公益社団法人能楽協会

奥州 安達原に辿り着いた山伏一行は、宿を借りようと一軒だけあったあばら家を訪れます。住んでいた女は一行を気の毒に思い、宿を貸します。一行の求めに応じ、仕事の糸操りの様子まで見せながら自らの過去を悔やみ、儚い世を語ります。そんな女を慰める山伏たち。やがて女は、彼らが夜寒をしのぐために薪を取りに行くに告げ、留守中に寢室を決して覗かぬよう念押しして出かけます。が、その言葉に、つい出来心から寢室を覗いた一行の従者。するとそこには、人間の屍骸が積み置かれていました。実は女の正体は、この安達原に住む鬼だったのです。一行は逃げ出し、秘密を暴かれ怒りに燃えた鬼女が追いかけて、食らおうとします。しかし、一行は力を振り絞り、祈り伏せると鬼女は弱り果て、我が身を取じつつ夜嵐の中に消えてゆくのでした。

## 第十六回 高校生のための能楽鑑賞会

◆狂言「<sup>ぶ</sup>す  
附子」シテ 上吉川 徹

◆能「<sup>あだちがはら</sup>  
安達原」シテ 今村 哲朗

令和6年3月26日(火) 14時開演(13時半開場) ※16時半終演予定

**参加無料** 会場 **大槻能楽堂**

但し、申込みが必要となります

【対象】高校生および引率教諭(教諭のみでは参加は出来ません)

【定員】220名先着順

【申込方法】右下のQRコードを読み取りいただきお申込みください。  
後日メールにてご連絡申し上げます。

※QRコードが読み取れない方は下記メールアドレス宛に

●氏名 ●学校名 ●連絡先(メール) を明記の上、お申込みください。

学校単位でのお申し込みは

●学校名と教諭名、参加人数、連絡先(メール) を明記ください。

参加お申込みは  
こちらから



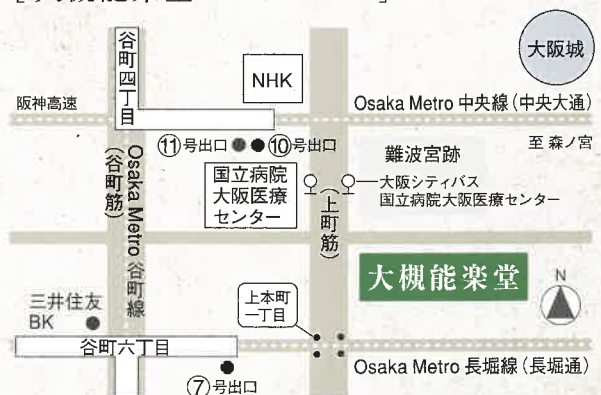
【申込受付期間】

令和6年2月19日(月)～3月22日(金)

【申込先・お問い合わせ先】

koukousei.nougaku@gmail.com(守家由訓)

[大槻能楽堂へのアクセス]



- Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーターあり) またはOsaka Metro谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」バス停下車、南へすぐ。  
\*「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き乗車。  
\*「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き乗車。

◆◆◆◆◆ 申込頂きました方には返信メールを差し上げますので、パソコンからの受信可能な環境でお待ちください ◆◆◆◆◆

本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は著作権・肖像権に触れますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。